

記録メディアのあゆみ

オーディオ

1960	1970	1980	1990	2000	2003
オープンリールテープ					
1935年にドイツで開発された。国産テープは1950年にソニーが商品化。当初のベースは紙、その後アセテート、現在ではポリエステルが主流。磁性体は酸化鉄。現在は海外メーカーの一部が製造・販売を続けている。					
1957年 カートリッジテープ					
1957年にBGM用として4トラックのフィデリパック型が商品化。1965年にはカーステレオ用として8トラックのリアジェット型が商品化。磁性体は酸化鉄。現在、4トラックが一部のバスの行き先案内等に使用されている。					
1962年 コンパクトカセットテープ					
1962年にフィリップスが開発。国産テープは1966年に商品化。当初、磁性体は酸化鉄、その後1971年に二酸化クロム(TYPE II)、1973年にフェリクロム二層構造(TYPE III)、1975年にコバルト系酸化鉄(TYPE II)、1978年にメタル(TYPE IV)が商品化。小型、高性能、優れた操作性に加え、製造権の無償公開、適切な標準化施策などにより世界に広く普及している。エンドレステープも1968年に商品化。					
1970年 マイクロカセットテープ					
1970年にオリンパスが商品化したコンパクトカセットの約1/4サイズのカセット。テープの種類は酸化鉄とメタルがある。会議録音などを主体としたビジネス用として普及。留守番電話にも使用されている。					
1976年 エルカセットテープ					
1976年にソニー、松下、ティアックの3社が商品化。テープは6.3mm幅で、磁性体は酸化鉄、コバルト系酸化鉄を使用。主な用途は音楽録音で、コンパクトカセット並みの取り扱いの簡便さとオープンリールテープ並のHiFi録音を両立させた。					
1987年 デジタルオーディオテープ(DAT)					
1983年に発足したDAT懇談会で標準化が検討され、1987年に商品化。3.81mm幅のメタルテープを使用し、回転ヘッドによりデジタル記録。					
1992年 NTカセット					
1992年にソニーが商品化。切手サイズのカセットで2.5mm幅の蒸着テープを使用。					
1992年 デジタルコンパクトカセット(DCC)					
フィリップスと松下が共同提案し1992年に商品化。コンパクトカセットも再生できる固定ヘッドタイプのデジタルオーディオシステム。3.8mm幅の二酸化クロム、またはコバルト系酸化鉄テープを使用。					
1992年 ミニディスク(MD)					
1992年にソニーが商品化。直径64mmの光磁気ディスクを使用した超小型デジタルオーディオシステム。60分、74分、80分用があり、MD-LPモードでは録音時間はその2倍及び4倍まで可能。					
1998年 音楽用CD-R/CD-RW					
1998年に、コンシューマー向けにデータ用とは異なる仕様で音楽録音専用のCD-R及びCD-RWが商品化。CDレコーダーで録音、74分用と80分用がある。2003年HC-Rdisc規格化。規格上、最大99分まで記録可能。					

AUDIO